

# 福祉用具・介護ロボットの 開発と普及 2017

平成30年3月



厚生労働省

Ministry of Health, Labour and Welfare

## 専門職によるアドバイス支援

案件番号  
29-B05

## レクリエーションツールの 機能訓練活用における助言

その他

TANO

機器事業者・団体

株式会社ラッキーソフト

〒254-0034 神奈川県平塚市宝町 11-1  
平塚フジビル  
Tel (0463) 23-7830  
Fax (0463) 23-7833  
HP <http://www.luckysoft.jp/>

アドバイス支援実施施設

■医療法人社団 幸隆会 多摩丘陵病院

### 意見交換のねらい

#### 発声トレーニングプログラムを 機能訓練として有効活用できるか検証

「TANO」は運動・発声・脳活性化トレーニングのプログラムが70種類以上標準装備されているシステムである。豊富な故に、導入事業所に利用状況を確認すると、「全プログラムを使いこなすよりも、慣れたお気に入りのプログラムを利用」する傾向があった。レクリエーションツールとして活用されており、機能訓練としての活用が課題と感じていた。今回「TANO」の発声トレーニングを機能訓練として有効活用できないか検証したいと考えた。

口腔・嚥下機能を維持することにより、全身状態

が整い、要介護状態の予防に役立つとされ、介護の現場でも、唾液腺マッサージ・嚥下体操が日常的に実施されている。「TANO」の発声トレーニングは楽しく盛り上がるため、口腔・嚥下訓練として効果的に活用できないか、専門職に効果検証とトレーニングとしての活用方法の助言を依頼した。



「TANO」のイメージ

### 意見交換の成果

#### 目的とするリハビリテーション内容に あわせプログラムに配慮や工夫が必要

入院・外来、年齢、身体の麻痺の程度、コミュニケーション障害の種類の違いによらず、使用者の適応範囲は広くあると考えられた。特に視覚的に患者が発した声がモニターできる点は、患者にとって目安になり、また動機付けにもなり有効である。しかし失語症か構音障害か等の障害の種類によって目的とするリハビリテーション内容に大きく違いがあるため、使用するプログラムには各々配慮や工夫が必要となる点が課題として挙げられた。以下具体的に例示する。

失語症の場合は、言い誤りや言いよどみがあるためそれに対応できるような反応時間の設定が可能になるとよい。また提示される「呼称すべき単語」の絵がはっきりと分かりやすいことや達成感を得られやすいよう難易度(単語の親和性や日常使

用される頻度)を変えられるようにするなどが挙げられる。

構音障害の場合は、その患者の日常会話の明瞭度を改善させるために必要な声に関連する機能項目が、呼気量増加、音量増大、開鼻声の改善(軟口蓋挙上の改善)、発声の仕方の質(声質)、声帯の内転の程度など多岐にわたり、患者によって各々異なるため、それらのどこに焦点を当てられるプログラムであるのかを提案できるためにも、上記各項目が正常範囲を中心に判定できるとより有効な訓練につながると思われる。



「TANO」の実施風景